

<b>第6次高浜市総合計画推進会議（第6回） 会議録</b>			
<b>日 時</b>	平成27年11月13日（金）午後6時55分～8時30分		
<b>場 所</b>	高浜市役所 第2会議室（4階）	<b>傍聴人数</b>	8名
<b>出席者</b>	<b>委 員</b>	酒井康満、岩月義成、井野代司彦、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、 内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏  (10名出席)	
	<b>行 政</b>	高浜市長 吉岡初浩 教育長 岸上善徳 総務部長 新美龍二 市民総合窓口センター長 大岡英城 福祉部長 神谷美百合 こども未来部長 中村孝徳 都市政策部長 深谷直弘 財務グループ リーダー 内田徹 文化スポーツグループ リーダー 岡島正明 教育センターグループ リーダー 内藤克己 教育センターグループ 主幹 岡本竜生 こども育成グループ リーダー 都築真哉 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 山下浩二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 都市防災グループ リーダー 芝田啓二 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣 保健福祉グループ リーダー 加藤一志 人事グループ リーダー 野口恒夫 税務グループ リーダー 鶴殿巖 行政グループ リーダー 山本時雄 企業支援グループ リーダー 平山昌秋 上下水道グループ リーダー 竹内定 介護保険・障がいグループ リーダー 竹内正夫 福祉まるごと相談グループ リーダー 野口真樹 生涯現役まちづくりグループ リーダー 磯村和志  (26名出席)	
	<b>事務局</b>	企画部長 加藤元久 総合政策グループ リーダー 木村忠好 同 主 幹 鈴木明美 同 副主幹 榊原雅彦 同 主 査 山本久美 同 主 事 稲垣翔太	

		同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀	(8名出席)
次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 推進会議からのコメントに対する行政の考え方と対応(案)の発表について 2) 人口ビジョン(案)および総合戦略(案)の概要について 3 その他		
資 料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議(第5回) 会議録 資料2：第6次高浜市総合計画推進会議からのコメントに対する行政の考え方と対応(案) 資料3：人口ビジョン(案)および総合戦略(案)の概要		
別添資料	・〇〇部長の実行宣言！(平成27年度上半期の振り返り&下半期のアクション) ・第6次高浜市総合計画アクションプラン (平成27年度上半期の振り返りと今後のアクションシート)		

## 1. あいさつ

副会長： ただ今より、「第6回 第6次高浜市総合計画推進会議」を開会する。  
本日は、会長が所用により急遽ご欠席ということで、副会長であります私が代理で進行を務めさせていただきます。

本日は、これまでの推進会議で平成26年度の取組みに対する施策評価を行ってきた中で、委員の皆さまからいただいた、施策に対するご提案・ご意見等に対する行政の考え方・決意を發表していただく。具体的には、平成27年度に実行中の事業や平成28年度事業案にどのように反映したか、見直し・改善策等を發表していただく回となる。

發表のあとには、委員の皆さまから感じられたことをご提言いただく。行政におかれては、ご提言を踏まえ、できる限り施策に反映していただきたい。

## 2. 議題

### 1) 推進会議からのコメントに対する行政の考え方と対応（案）の發表について

副会長： それでは、早速發表に入る。今回も行政からの發表後、目標ごとに区切って、委員の皆さまからのご意見をお受けしていく。行政の發表は、1目標あたり「2分以内」とする。なお、最後には、委員の皆さま全員からご發言いただく時間を設ける。

まずは資料2の1ページ、目標（1）の發表からお願いしたい。

行政： まず、「企業の取組みに対するPR」については、これまでも「広報たかしま」の「まちの話題」や「カメラレポート」の中で、市内企業の地域貢献活動を紹介している。今後は情報の掘り起こしのための情報提供の関係づくりを目的に、企業の広報部署などにアプローチしていく。

次に、「中学生への『まちづくり出前授業』の実施」については、中学校では既に市民一斉清掃や総合防災訓練に参加するなど、まちづくりの実践を行い、その大切さについて体験していると考えており、出前授業で受けたまちづくりの実践の精神は、受け継がれているものと考えている。しかし、小学校の出前授業の内容がどんなふうにつながっているのか、という検証が出来ているわけではないため、今後こういった検証を行う中で、中学校での出前授業が必要かどうかを検討していきたい。

「まちづくりのつながり」については、PTAの方々の頑張りを広報などで取り上げて励みになるようにつなげていきたい。

最後に、「まちづくり協議会特派員のあり方」については、特派員としてさらにスキルアップするため、特派員連絡会や説明会などを通し、人材の育成を行っていく。さらに、若手・新人職員に向けた研修の一環として、制度について説明をしていくなど、特派員として手が挙げやすい雰囲気づくりを進めていく。また、特派員制度は9年目を迎えるということで、今後のあり方・見直しなども検討していく。

- 副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。
- 委員： 企業への取組みについて、情報発信をしていただき企業としてはありがたいが、本当に企業が行ったことを感謝していただけるのであれば、例えば市民表彰だけではなく、企業を表彰するようなことがあると、企業側としても励みになる上、従業員もこれだけ地域に出て活動しているということが見えるので、ぜひご検討いただきたい。
- 行政： 市として感謝の気持ちをどのように表していくかという手法について、今後検討していきたい。
- 副会長： 続いて、3ページ 目標（2）をお願いしたい。
- 行政： 「財政状況のさらなる見える化」については、自治体財政健全化法の4つの指標について、今年度は財政破綻の状態をレッドカード、その一步手前の状態をイエローカードになぞらえ、11月1日号の広報にてその基準及び本市の状況並びにいずれの指標も本市は健全状態であることをお示しした。
- 「基金の積立てに関する情報提供」については、本年度、財政状況提供のため「当初予算の概要」をリニューアルし、基金の目的・残高の推移等について掲載をした。
- 「基準に即した行政サービス水準の抑制」については、対象サービス、抑制理由、抑制金額等を定める「事業費見直し計画」に基づいて行うこととしている。
- 行政： 「公共施設に関する情報提供」について、公共施設のあり方を進めていくためには、市民の方のご理解とご協力が必要不可欠であるため、ご意見のとおり市民の方への迅速かつ適切な情報提供を行う。10月には有識者による講演会を開催し、11月には高浜小学校区を皮切りに、地区説明会を開催するとともに、現在町内会に対して出前講座を実施している。
- 副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。
- 委員： 公共施設の問題について、若い職員にももっと今の状況を勉強していただき、市民に聞かれた際にも的確な回答ができるようになると、より幅広い情報提供につながると考える。
- 行政： 公共施設のあり方の問題は、行政として重要な課題である。職員として同じ方向性で進めていくため、今月職員向けの勉強会を開催する。
- 副会長： 続いて、5ページ、目標（3）をお願いしたい。
- 行政： 目標（3）の切り口としては、まちの未来・人の未来・子どもの未来につながるまなびを進めることが重要であると考え。ご承知のとおり生涯学習というのは、自らの自主的なまなびというのを基本としている。ジャンルも趣味・実用・子育て・交流・防災・防犯・健康・環境など様々で、場所も市内の各所で行われている。そこで、現在全庁に依頼文書を配布し、生涯学習の棚卸しを行っており、11月末には全てが出揃う予定である。この結果に基づき、個人のまなび・地域のまなび・まちのまなびに分け、かつ対象者も分け、まなびの

見える化を進め、まなぶ人・教える人とのマッチングや、まなびにつながる機運を高めていく。また、本市の生涯学習は子どものまなびを根っこに捉えているため、子どもたちが様々な経験を積み、自分の未来・生き方を生み出しているような取組みを強化していきたい。一例を挙げると、現在生涯学習を総合的に進める取組みとして、高浜の魅力を宝箱に詰め込んでいく「タカハマ！まるごと宝箱」という取組みを進めているが、来年度から「タカハマ！まるごと宝箱」のまちの魅力のコンテンツと、タカハマ物語の制作で培ってきた映像文化、子ども若者の成長応援の取組みを融合し、まちの魅力の発信を子どもたちが自ら行うという新たな挑戦をしていく。

最後に、「生涯学習・学校教育・子育て」3分野の連携について、学校教育・子育て分野への市民・地域の乗り入れという点では、本市は進んでいると認識しているため、今後も意識して連携していく。

副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。

(意見・質問等なし)

副会長： 続いて、9ページ 目標(4)をお願いしたい。

行政： 「地域との連携の見える化」については、実際に行われている取組みについて、可能な限りシートに記述をする。

「教職員へのバックアップ体制」については、異校種参観が過度の負担にならないよう、学校の状況を考えながら参観の選択場面を増やしていく。

「教職員の意見集約」については、教職員の意見は各学校の自己評価に活かしている。成果の検証は数字にはならないが、異校種間連携推進委員会で意見交換しているため、今後活用していく。

「カレンダーの目的の明確化」については、各園・各学校におけるPTA総会で継続して説明していく。

「子どもの二極化への懸念」については、日本語指導・少人数指導各種アシスタントなどを有効に活用し、各学校における取組みで対応していく。

「地域の活かし方」については、シートには表し切れていないが、各園・各学校が地域諸団体と連携している場面はたくさんある。取組みについては精選を図りつつ、継続して進めていく。

「3分野の連携強化」については、連携が進み始めた内容もあるが、ベースとなる生涯学習政策に学校教育として共に取り組む内容としては、まずは情報を共有し、可能なところから連携を進めていきたい。

副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。

委員： 「目指す子ども像」のカレンダーに、行政やまち協などの行事日程を入れることは可能か。

行政： どういった内容載せるかによってカレンダーの雰囲気も変わってくるが、今では子ども・学校中心に作っており、比較的使いやすい雰囲気、写真を入れて作っている。

- 委員： 写真ではなく、日程的な点で市内のいろんな行事が打ち合うことが多いため、カレンダーに集約できないかということである。
- 行政： このカレンダーは、園・学校が育てたい学習習慣を周知していく目的で作ったものであり、このカレンダー1つに集約していくことは難しい。
- 副会長： 内容の面からも難しいとは思いますが、一度検討をお願いしたい。
- 委員： 「地域の活かし方」について、ここで言う地域は「人」だと思うが、先生方が変わっていくごとに、地域の人たちとの取組みが失敗するケースを目にする。どこかがそういった状況を吸い上げて、指導するなり管理すると良いと思う。
- 行政： まずは具体的に何が原因で失敗したのかということを考え、学校の管理職や教育委員会でも、その原因から対策を考える準備はできている。教職員は人事異動があるためいろいろなこと起こり得るが、問題が起こらないようにするための対策が必要であると感じる。
- 副会長： 続いて、11ページ 目標（5）をお願いしたい。
- 行政： 「市民の声を直接聞く」については、保健事業や子育て支援施設において対応するスタッフが直接声を聞いており、施策に影響することについては、担当グループへ情報提供し、共有している。また、様々な会議体においても当事者として参加している方がいるため、その中でご意見を伺っている。
- 「情報の提供・交換の仕組み」については、現状としては行政からの発信がメインで、メールなどでお問い合わせがあれば回答をしている。
- 「企業を巻き込んだ取組みの展開」については、子ども・子育て会議等に企業の代表の方にも出席していただきご意見をいただいている。こういった会議の場を活用し、企業側からの取組みや情報発信をお願いしていく。
- 「親・子ども双方の意見の集約」については、子どもの声を聞けるよう工夫をしていく。
- 副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。
- 委員： 「3分野の連携強化」について、行政の考え方と対応（案）が3分野全く同じ回答である。本来であれば「各分野で行っている事業や会議体等を活用しながら連携していく」というように、書きぶりが変わってくると思うが。
- 行政： 生涯学習が学校教育も子育て・子育ても包含している大きな枠であり、生涯学習が全体を網羅するという考えからこういった記載内容としている。
- 市民が学校教育の現場へ踏み込むことは、かなりハードルが高くなっている時代であるが、本市は他市と比べ教育委員会との壁が非常に低い。今後も必要に応じて連携していく。
- 委員： 具体的な取組内容であり、各分野で取組む内容が違うため、その中でうまく3つが連携・情報共有ができるように、具体化した取組みを実施していただきたい。
- 副会長： 続いて、13ページ 目標（6）をお願いしたい。

行政： 「鬼瓦の全国的な普及」については、鬼瓦の魔除けとしての機能を維持しながら、現在の生活空間に合わせた取組みということで、インテリアとして室内空間に設置する「鬼瓦家守」を現所在地元事業者が制作販売している。市としても家守を国のプロジェクトに推薦し、クールジャパンを意識した三州瓦のブランド化への取組みを支援していく。

「市外への積極的PR」としては、高浜市観光協会が積極的に開拓し実施しているPR活動を支援している。

「地場製品の売り込み」については、需要と供給のバランスを双方向での関係づくりと捉え、東北地方における復興支援を兼ねた瓦の補助を行うなど、双方がWinWinとなる関係づくりを行っている。

「周辺インフラ整備」については、高浜市観光協会が運営している観光案内所「オニハウス」や市内の休憩所、土産物販売所の積極的なPRを支援していく。

「ジャンボ落花生の産業化」については、植栽面積の増大に限りがあり、食材の加工による商品化が大前提であると考えている。そのために、農村生活アドバイザーによる試作を続け、商品化の候補を作り出し、商品を開発する仕組みを民間企業の協力を得る必要があると考えている。商品化については、農業者や企業と連携し、消費者がおいしいと感じられる商品を生み出す取組みを進めていく。

「営農組織の法人化」については、農業の担い手の減少という課題を解決する手法と認識しているが、現在農業を営んでいる方々自らの工作をしたいという気持ちを汲みながら、将来の展望を見通せる形を研究していく。

「コミュニティ・ビジネス創業支援」については、新たなチャレンジャーの発掘及び育成に取組みながらも、チャレンジャーの現在の活動が地域の課題やチャレンジャーの目指すべき方向性により近付くためのフォローアップを行い、継続した提案ができるよう支援をしていく。

最後に、支援団体については様々な観光活動やブランド化、ニーズアップの活動を行っている。活動の効果については鬼みちまつりで実施した来場者へのアンケートや、瓦の販売実績などを確認しながら活動団体の活動が発展していくよう団体とともに考え、目標達成のため、団体と連携を取りながら支援をしていく。

副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。

委員： 「周辺インフラ整備」において、高浜茶屋吉貴やおいでん横丁を果たしてどれだけの人が知っているか。しっかりとしたPRをお願いしたい。

副会長： 続いて、17ページ 目標（7）をお願いしたい。

行政： 「ごみ分別表の改善」については、一部実施しており、今後ご希望に応じ順次取り組んでいく。

「環境美化推進員の登録人数」については、全校生徒が活動する内容である

ため、登録人数については全校生徒とし、目標の数値を引き上げるといった対応を行っていく。

「市民一斉清掃・油ヶ淵浄化デーの見直し」については、ここ数年町内会・市内企業・環境美化推進員・小中学校に参加を呼びかけ、顔ぶれに変化が見られるため、この方向で進めていきたい。

「大人の環境美化推進員の増加に向けた取組み」については、子どもたちの活動は大人への影響が大きいと考えているため、しばらくは子どもたちに推進員になっていただくことに主眼を置き、このことをもって大人の推進員登録拡大を図っていく。

「ごみの立ち当番への対応」については、立ち番時間の短縮、分別収集拠点の統廃合など町内会からご提案があった場合柔軟に対応しているが、引き続き検討していく。

副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。

委員： 「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」をPRするとともに、条例に基づいて、市民・企業・ボランティアなどが活動に参加できるような場作りを進めていただきたい。

行政： 当条例の主旨は、市民・行政等の役割分担を謳っており、誰かが強制されてやるものではなく、自主的に活動し、環境美化の意識を高めていただくようにすることが目的である。長い時間がかかると思うが、地道な活動を続けていきたい。

副会長： 続いて、19ページ 目標（8）をお願いしたい。

行政： 「いきいき号のコース検討」について、現在のコース設定が好評であり、利用者が増加しているため、利用状況を見ながら対応について検討していく。

行政： 「地域と連携した憩いの場づくり」については、時間軸を長く持ち、地道な支援を進めていく。いろんな行事に職員が参加し、実際に参加されている方と話す機会が多々あるが、そうした中で必要なタイミングで活動を紹介していくことが必要であると実感している。

「全体像を見通したライフラインの整備」については、計画的な人員配置と人員育成ということで現在も実施している。技術的な整備については、専門知識を有した職員・人材が必要不可欠であり、人事担当課に技術員の増員を要求しており、事業量、必要人数等を考慮しながら人材育成にも努めていく。

「ライフラインの耐震補強」については、公共事業に該当するものは、計画性をもって進めている。上水道配水管の耐震化については、既に南中学校や翼小学校へのルートは完了しており、残りの小・中学校へのルートの耐震化についても計画中である。下水道の工事その他の工事等と関連しながら、支障となる水道管についても耐震化を進めていく。

副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。

委員： 翼小学校へのルートとは。



- 行政： 吉浜配水場から翼小学校までのルートである。
- 副会長： 続いて、21ページ 目標（9）をお願いしたい。
- 行政： 「わが家の防災マップづくり」については、昨年度市で作成した高浜市地震防災マップ（わが家の防災メモ）と同様の目的であるため、今後PRしていく。
- 「地域行動計画の具体化」については、これまで福祉部と合同で避難行動要支援者対策を進めており、今後も引き続き福祉部の情報とリンクさせながら進めていく。
- 「全庁的な防災・減災対策」について、防災・減災対策に対する庁内での連携については、毎年実施している庁内防災訓練において対策を講じている。今後も引き続き訓練を重ねていく。
- 「中学生対象の交通安全教室」については、自転車運転者講習制度など、道路交通法の改正情報については中学校に提供しており、中学校の要望を確認しながら中学生を対象とした交通安全教室を実施していく
- 「小学校区ごとの分析」について、これまでは性別や年齢を中心とした分析となっていた。今後結果の分析においては、小学校区の特長にも着目し、広い視野を持って分析にあたりたい。
- 副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。
- 委員： 「全庁的な防災・減災対策」について、今夏の常総市における鬼怒川の氾濫を教訓に、想定を超えることが起こり得るということを頭に入れ、万全な体制を構築していただきたい。
- 行政： 災害の発生状況・時間帯などいろんな場面を想定した訓練を、今後も継続して実施していく。
- 委員： 高浜市地震防災マップを今後どのように活用していくのか。
- 行政： マップの裏面をあえて白紙にしており、その意図としてはご自身で実際に歩き危険箇所等を確認していただくことにある。地域と行政がお互いに良い知恵を出しながら進めていけたらと思っている。
- 委員： 町内会の防災無線の修繕について、いざという時のために早急な対応をお願いしたい。
- 行政： 次年度で予算要求しているため、予算確保に向けて全力を尽くしていく。
- 委員： 「小学校区ごとの分析」における考え方と対応（案）の表現が曖昧であるため、表現を改めてはどうか。
- 行政： 文末を「着目します」と修正させていただく。
- 副会長： 続いて、23ページ 目標（10）をお願いしたい。
- 行政： 「生活困窮世帯への就労支援」については、協力企業・事業所の開拓として、3つ目に掲げた項目に既に取り組んでおり、1つの企業と協力関係を築いている。今後も継続して協力企業の開拓に努めていく。次に、無料職業紹介・職業相談の導入の検討として、相談者に就労先の斡旋が行えるようにするための検討を行い、平成28年10月を目途に、導入の可否を含めた方向性を決定して

いく。

「相談に来られない人への支援体制」については、アクセスしやすい相談支援体制づくりに向け、2つ目の項目の①～③に掲げる取組みを平成28年10月をまでを目途に実施していく。

「市民サービス向上に向けたさらなる努力」については、子どもから高齢者まで、障がい者・妊産婦を含めた包括的な支援体制の仕組みづくりを行っている。この仕組みづくりを行っていく中で、効率的な組織運営体制を築き、市民福祉の向上に努めていく。

行 政： 「見守りネットワーク協力者への親切丁寧な対応」については、実際の登録画面を案内チラシの中で挿絵として示し、目で見ても分かるような案内を作成した。登録方法に関する問い合わせについては、携帯電話の機種の違いによって、職員では対応が難しい場合があるが、極力対応させていただく。迷惑メールが来る点については、携帯電話会社での対応が必要となる旨をご理解いただきたい。

副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。  
(意見・質問等なし)

副会長： 続いて、25ページ 目標(11)をお願いしたい。

行 政： 「学区ごとの健康自生地マップ」について、現在自生地は78ヶ所まで増えてきた。88ヶ所に到達した段階でマップを作成し、予定では来年6月発行の「でいでーる」に折り込む。

「いきいき号のコース検討」については、自生地付近の停留所の調査をするとともに、いきいき号を活用した自生地を巡るモデルコースを作っていく予定をしている。

「いきいきクラブとの連携」については、昨年度から役員会や生きがい教室で意見交換をし、いきいきクラブが主催の自生地も誕生し始めている。今後は連携を深め、さらに数を増やしていきたい。

行 政： 「認知症予防の取組みの強化」については、現在「脳とからだの健康チェック2015」を進めている。予防事業については、国立長寿医療研究センターと共同で進めていく。

副会長： それではご意見・ご質問等があればお願いしたい。

委 員： 目標(10)と(11)で、「市民サービス向上に向けたさらなる努力」に対する考え方と対応(案)が同じである。関連するアクションプランが異なるため、書きぶりが変わるのが普通だと思うが、なぜ同じなのか。

行 政： コメントの内容を福祉部門全体に対するものと解釈し、福祉部全体として統一した回答とさせていただいた。

委 員： 自生地の数が増えており、自生地に足を運んでいる方も意欲的に取り組んでいる。「この自生地は何人利用している」などの結果・成果をどのように把握しているか。

- 行政： スタンプラリーを実施しており、どの高齢者がどの自生地を巡っているかについて把握しており、自生地ごとに利用者の性別・年齢構成等も把握している。実行委員会のメンバーの中では共有されているが、広報誌や「でいでーる」を通して、市民の方にも自生地の活用状況等をPRしていく。
- 副会長： それでは、一通り発表が終わったので、委員の皆さま方お一人おひとりから、発表を聞いた感想等をいただきたい。
- 委員： 委員から出たご提案等に対し、丁寧に検討していただき感謝申し上げます。  
子どもたちの地域活動への参加がとても多くなったと感じ、子どもたちから地域の輪が広がっていると実感している。
- 委員： 丁寧な回答に感謝申し上げます。  
鬼みちまつりやおまんなど多くの参加者で賑わっており、日頃のPRの成果が出ていると感じた。
- 委員： 「地域」という言葉が多く出ており、地域の方がいかに行政の取組みに携わっているかということが改めて分かったが、地域の方の中でも温度差を感じる時がある。地域から出てくる大きい声だけでなく、小さな声にも耳を傾けることで、地域がよりよくなっていくと感じる。
- 委員： 総合防災訓練に多くの中学生が参加してくれた。毎年まちづくり出前授業を行っているが、その成果が出てきたと感じうれしく思う。  
まちづくり特派員には非常に感謝しており、入庁してできる限り早く地域の中に入ってほしいと思っている。特派員には名札を付けるなど、他の職員との区別が付くようにしてはどうかと思った。
- 委員： 会議の内容からは外れるが、マイナンバー制度の現状について教えていただきたい。
- 行政： 11月中旬以降に市民の方に届く予定となっている。特に高齢者への周知ということで、いきいきクラブ連合会や民生委員の皆様を通してPRを行っている。
- 委員： 委員からのコメントの中には無理難題なものもあったと察するが、「行政としてここは難しい」という部分もしっかりと読み取ることができた。  
先日のおまん祭りでのおまんまつり保存会の方々の手際の良さを目の当たりにして、インフラ整備は金をかけなくても人の力でできることが分かった。
- 委員： それぞれの取組みは人と人とのつながりで動いている。市民と行政が現場でしっかりと話し合いながら、高浜のために行動していきたい。
- 委員： 非常にわかりやすくまとめていただき感謝申し上げます。  
取組内容については、関連のアクションプランと紐付けて記載するとより良いものになると思った。
- 副会長： 取組内容に完了日程・具体性に欠けるものが一部やはり見受けられる。「～を検討します・図ります」は「出来ません」の意味と捉えられてしまうため、

その点を改善していただきたい。目標や期限を設けることは、達成度を測るものさしになる。ものさしがないのにどのように達成度を測るのかと疑問に思う。あくまでも私自身の所感であるが、目標（１）・（２）・（１０）・（１１）はうまくまとめられていると感じた。目標や期限は必ずあるはずなので、それを表に出すようにしてほしい。

今日の発表がスタートである。発表して終わりではなく成果が出せるよう、市民と行政が協力し合いながら取り組んでいきましょう。

委員： 貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

行政の回答が言い放しで終わらないよう、責任を持って今後もチェックしていく。

今後子どもへの投資は、いかに市の財政状況が厳しくなろうとも必要になってくる。グーグルの最高経営責任者が「今後２０年間に、人間がやっている仕事のほとんどが機械に取って代わる」と言っている。そうになると、子どもに対する教育が今のままでいいのかなと思う。創造的な仕事ができるような教育を今後も進めていく必要があり、ＩＣＴを活用した教育が今後不可欠になると思っている。市町村の財政状況の良し悪しが、教育の格差につながるということがあってはならない。そういった点でも現在、公共施設のあり方の検討を進めているのでご理解をいただきたい。

## ２）人口ビジョン（案）および総合戦略（案）の概要について

副会長： それでは続いて議題２「人口ビジョン（案）および総合戦略（案）の概要について」事務局より説明をお願いしたい。

行政： 高浜市人口ビジョン（案）及び高浜版総合戦略（案）の概要について、まずそもそもこれらを作る目的であるが、「まち・ひと・しごと創生法」という法律に基づき、すべての自治体で策定をすることになっている。高浜市としても国や愛知県の人人口ビジョン及び総合戦略などを勘案しながら、高浜市の人口の現状を分析し将来の展望を示す「高浜市人口ビジョン」、その展望を実現すべく２０１５年度から２０１９年度の間で取り組む施策を示した「高浜版総合戦略」を策定している。本日は、これらの案の概要をお示しする。

まず、人口ビジョンであるが、現状の分析として①から④にあるような状況となっており、特に④にあるように、本市の合計特殊出生率は、現状で国民希望出生率「１．８」に既に達しているが、人口を維持できる水準「２．０７」に向けてさらなる対策が必要である。

人口の将来展望であるが、人口のピークである２０４０年以降の人口を５０，０００人で維持する。また、２０２５年以降の生産年齢人口を２８，０００人で維持するとしている。そのためには、合計特殊出生率を段階的に向上させ、２５歳～３９歳の若年層で現在転出超過となっている状況を抑制することが必要であるとしている。

今お話しした人口ビジョンを達成するための施策を示すものとして、総合戦略を作っていくのだが、以前の推進会議でもお話ししたように、高浜市では市民の皆さんと一緒に丁寧になり上げてきた総合計画がある。その総合計画の実現こそが高浜市の地方創生につながると考えている。この点については、前回の推進会議の中でも中川会長から、「すでにしっかりとした総合計画が高浜市にはあるため、総合計画と整合性のある総合戦略とすればよい」というお言葉をいただいているところである。

そういったことを踏まえ、高浜市の総合戦略は総合計画をベースに、創生戦略として高浜創生のためのキーワードを地場産業である「瓦」としている。施策横断的に取り組む高浜創生のための高浜らしい重点ポイントと位置づけるとともに、創生戦略①ではまちへの愛着を高めることで、この「まち」に住み続けたいという想いを高める取組みを、創生戦略②では結婚・出産・子育てに対する取組み。創生戦略③では教育。創生戦略④ではしごとの創出。創生戦略⑤ではいつまでも健康でいきいきと活躍できるまちづくりに取り組むとしており、その具体的な中身としては、基本的には総合計画のアクションプランを当てはめることとしている。

また、総合戦略が効果的に作用しているかを測るための指標として2つの指標を掲げ、効果測定をしていくものとしている。

進行管理としては、総合計画の進行管理と連動する形をとっているため、推進会議で委員の皆さんが総合計画の進行管理を慎重審議していただいていることが、そのまま総合戦略の進行管理にもつながるものとしている。

副会長： ただいま説明のあった件について、ご質問があればお願いしたい。

委員： 創生戦略④の説明書きが長く、ポイントが分かりづらい。また、「地域資源を活かし、モノづくりで創生する」とは具体的にはどういうことか。

行政： 本市は第2次産業への就業者割合が日本一という特色があるため、モノづくり文化を切り口に仕掛けていけると、高浜らしい戦略になると考える。

また、説明書きについては、要点をまとめさせていただく。

委員： 戦略の中に「出会い」という物事の最初の部分を入れていただきたい。

行政： 婦人会の結婚相談部にも話を伺い、支援できる部分があると感じた。「出会い」については、創生戦略②において掲げている。

### 3. その他

副会長： その他に入るが、地域福祉Gよりお知らせがあるのでお願いしたい。

行政： ～12月19日開催の「大家族たかはま家族会議」のPR～

副会長： 事務局から「部長の実行宣言」と「アクションプラン」について、説明をお願いしたい。

行政： 部長マニフェストでもある「〇〇部長の実行宣言！」の平成27年度上半期の振り返り&下半期のアクション、加えて、行政の行動計画である「アクショ

ンプラン」の27年度上半期の振り返りと今後のアクションシートを事前にお配りした。

行政が上半期にどんなことに力を入れて取り組み、また、総合計画に掲げた目標達成に向け下半期にどんなことに取り組んでいくのかをご理解いただくため、お時間のある時にご一読いただきたい。

取り組みに対する質問等については、総合政策Gへご連絡いただき、各部長・担当Gへおつなぎする。

副会長： 続いて、次回第7回推進会議の日程を行う。

行政： 次回第7回が今年度最後の推進会議となる。

内容としては、「平成27年度推進会議を振り返って」と題し、点検・確認作業等の課題・成果などを振り返り、平成28年度の推進会議運営に反映させていきたい。

次回の日程について、3月11日（金）または3月15日（火）のいずれかの午後7時から開催したいと考えているがいかがか。

（日程調整）

行政： それでは、第7回推進会議は、3月11日（金）午後7時からとする。日程が近づきましたら、文書でご連絡する。

副会長： では、これをもちまして、第6回総合計画推進会議を終了する。  
長時間にわたり、ありがとうございました。